「幌延町における深地層研究に関する協

今年度、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、原子力機構）から提出のあった『幌延深地層研究計画 令和２年度調査研究計画』および『幌延深地層研究計画 令和元年度調査研究成果報告』について、幌延町における深地層の研究に関する協定書（以下、三者協定）第 14 条に基づき設置する「幌延深地層研究の確認会議」（以下、確認会議）による内容確認結果を踏まえ、三者協定に則り幌延深地層計画が進められていることについて確認したことを原子力機構へ通知しました。

幌延深地層研究計画の内容確認にあたっては、令和２年８月 31 日（月）、10 月 16 日（金）、10 月 23 日（金）に確認会議を開催し、原子力機構に対し、構成員である北海道、幌延町、専門有識者から質疑を行う形で確認を行いました。確認した事項の概要については、次のとおりです。

【確認会議で確認できた主な内容】

1．研究成果および研究計画について

（1）令和元年度の研究実績について

・令和元年度は、「令和元年度（平成31年度）計画書」のとおり、３つの必須の課題について研究を行い、令和２年２月および３月に行われた深地層の研究施設計画検討委員会における外部評価結果も踏まえ、昨年度の確認会議で説明した令和元年度までの成果を得たこと。これにより、令和２年度以降の研究計画に、新たに明確になった研究課題はないこと。

（2）令和２年度の研究計画について

・原子力機構は、令和２年度の研究は「令和２年度以降の幌延深地層研究計画」および「令和２年度調査研究計画」のとおり開始しており、遅れは出ていないこと。

・新型コロナウイルスの影響による大きな問題は発生していないこと。

（3）研究評価の状況について

・原子力機構は、外部評価の意見とその対応については、ホームページで公開していること。今後、公開する際には、評価の状況を北海道および幌延町へ報告すること。

（4）年度ごとの研究の進捗状況について

・原子力機構は、研究計画に対する研究課題の進捗状況がわかるよう、研究課題毎にどのような成果を出しているのか、また、研究課題間の関連性はどうなっているのかなど、計画書の策定などにあたっては、より分かりやすい資料の作成に努めること。

2．研究終了後の埋め戻しについて

（1）研究終了後の埋め戻しについて

・原子力機構は、令和元年度に開催した確認会議において「国内外の技術動向を踏まえて、地層処分の技術基盤の整備の完了が確認できれば、埋め戻しを行うことを具体的工程として示す」としているが、研究終了後の埋め戻しの考え方について、令和元年度から埋め戻しを行っている原子力機構の研究施設である瑞浪超深地層研究所の例とともに、埋め戻し方法や工事期間、周辺環境のモニタリングなどの一般的な事例を整理し、令和３年度の確認会議で示すことを検討すること。

・埋め戻しは、幌延深地層研究センターの地下研究施設の建設時に発生した掘削土（ズリ）で行うこととしているが、土の性状は経年変化する可能性があることから、今後、埋め戻しの検討において考慮すること。

3．情報公開などについて

（1）前年度成果と年度計画の報告について

・原子力機構は、令和３年度以降の地域における報告会の説明資料作成にあたっては、道民がイメージしやすい表現を用いるなど、受け手側を考慮した資料作りに努めること。

・確認会議において、前年度の研究成果をより早期に確認するため、例年、新年度計画の提出より後となっている前年度の研究成果については、令和３年度以降、一部見込みになる部分もあるが、新年度の研究計画の提出の際に提出すること。

・令和３年度以降の計画書の作成にあたっては、当該年度の研究内容と前年度の研究とのつながりを意識するよう努めること。